



賀新春

あたたかい正月でした。私の歳になると暖冬は有り難いことですが、山に雪が少なく、狂い咲きのツツジが見られるなど、氣勢をそがれたり、戸惑ったりしています。

正月三ケ日は、駅伝やラグビー、サッカーのテレビ観戦を楽しみながら、「赤旗写真ニュース」新年号の張り出し、「奈良民報」新年ビラの配布などのんびりと過ごし、3日から二上山早朝登山を開始しました。

ごみの少ない二上山

二上山には元日、初日の出を見に、何百という人たちが登るので、3日には丈夫なゴミ袋をリュックに入れて登りましたが、拍子抜けするほど、ゴミは少なく、「ゴミ持ち帰り」の意識が多くの人たちに浸透しているのか、と感心しました。あるいはどなたかが清掃してくださったのでしょうか。いずれにせよ、清々しい気持ちで山を歩き、登山道・排水溝の掃除を行って帰宅しました。

↑ 森本明日香村議の手作り門松

国民が政治を動かす年に

6日には健生会友の会の世話人総会が、7日には友の会・労組・法人の三者共催餅つき大会が行われ、9日には国民救援会中和支部や年金者組合の新年会が、13日には戦争法廃止めざす集会が開かれ、各分野・各団体の活動がいっせいに始まります。

安倍自公政権の暴走政治で、平和、暮らし、医療福祉が脅かされていますが、そうした暴走に反対する国民各層の自主的・自発的運動の大きな広がり、前進は、「社会と政治を変えていく底力は国民の声と力である」ことをいよいよはっきりさせています。今夏の参院選はそのことをさらに鮮明にさせるチャンスです。「戦争法の廃止を求める」国民署名運動に貴方の力をお貸しください。



寺前友の会副会長と



明け行く大和盆地

(二上山中腹から)

沖縄・石垣島から届いた植物写真集

高校同窓生の力作「八重山の豆蔵」

石垣島から植物写真集が送られてきました。「八重山の豆蔵」と題した96ページだて、八重山におけるマメ科の植物87種を収めていますが、それぞれの属名、姿(樹姿)、葉のつき方、花、豆果などがフルカラーで紹介しており、立派な植物図鑑です。

著者の中尾裕氏は高校同窓同期、共に地学部にも所属し、野山で岩石を採取し、それを詰めた重たいリュックを背負って歩いた仲間なのです。卒業後外洋航路の船に乗り込み、長い間船上生活を送った人だけに、見事な写真と丁寧な編集には驚きました。

87種の植物の中には、フジ、クズ、ネムノキなど二上山でも見られるものも有りましたが、初めて見る植物がほとんどで、原色の鮮やかな色をした花が多く、パラパラとページをめくって、すぐにでも現地に行きたくなりました。

マングローブの森も、サガリバナも見てみたい、澄明な海で泳ぎもしたい、だが、なによりも石垣島には於茂登岳という沖縄の最高峰があるのです。早速元地学部の仲間たちにメールを送り、毎年行っている「地学部同期生の登山旅行」の目的地に石垣島を推挙しておきました。

同写真集は NPO 法人「花と緑の石垣島」で販売中。問い合わせは 090-5949-3296 中尾裕まで。



↑サネカズラ(ピナンカズラ)の実(葛城市二上山ふるさと公園で)



カラタチバナの実が艶やか

二上山の谷川沿いでカラタチバナ(唐橘・ヤブコウジ科ヤブコウジ属)が丸い実をつけ、その真っ赤な実が弱い冬日にでも艶やかに輝いています。写真の物は葉が虫に食われて立派とは言えませんが、光沢のある厚みの葉と赤い実がめでたいものとされて、ヒャクリョウとも呼ばれ(中国名は百両金とのこと)、マンリョウ(万両・ヤブコウジ科ヤブコウジ属)、センリョウ(千両・センリョウ科センリョウ属)、ヤブコウジ(藪柑子・ヤブコウジ科ヤブコウジ属・別名十両)、アリドオシ(蟻通し・アカネ科アリドオシ属・別名一両)等と共に正月用の飾りつけに使われます。

「千両、万両、ありどおし」

この言い回しは金運を願う言葉として、正月などで使われるそうですが、ヤブコウジ(十両)と共に日本の山野に自生する植物です。

↑カラタチバナ

二上山ではアリドオシの自生が未確認ですが、他の4種は確認されており、花の少ない時期に登山路の景色に彩りを添えています。

ちなみにアリドオシの近縁種のおオアリドオシ(アカネ科アリドオシ属)やツルアリドオシ(アカネ科ツルアリドオシ属)は自生しています。

おオアリドオシ(二上山)鋭いトゲをご覧ください⇒

